

がん診療の質の向上と研究開発に資するリアルワールドデータプラットフォーム開発

研究開発代表者: 京都大学大学院医学研究科 教授 武藤 学

がん登録データ (29万例のデータ) の活用

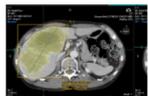
がん登録データ + 電子カルテRWDの統合

学術利用 + 産業利用



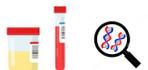
電子カルテ記述データ

- ・医療者記述・治療内容・有害事象



画像診断データ(PACS)

- ・診断医記述・RECIST判定



臨床検査データ

- ・血液・生化学・遺伝子等

課題解決

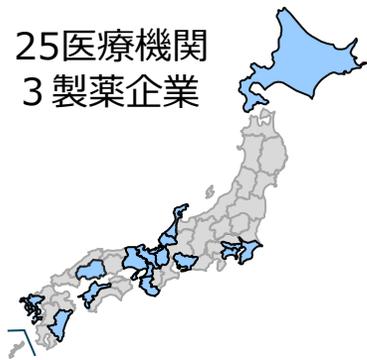
課題

- ・ベンダーがバラバラ
- ・データベース化されていない
- ・デジタル化の遅れ
- ・データ関係ができない

- ・Cyber Oncology®による構造化データベース
- ・病理所見/放射線読影記録のLLM開発
- ・Region Tracking™ AIによる治療効果自動判定
- ・電子カルテでとの連携による総合ビューアー
- ・院内検査データのアーカイブシステム
- ・外注検査のバイオマーカーデジタル化

J-CONNECT
コンソーシアム
(がん登録
データの利活用)

25医療機関
3製薬企業



共同研究契約締結済

委託研究開発機関

KU:IP

京都大学医学部附属病院
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL
J-CONNECT事務局



スタートアップ企業

産学官共同研究企業

NTT

PRIME-R

Canon

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

intage

株式会社インテージヘルスケア
Healthier Decisions

HU
H.U.GROUP

産学共同研究講座
(設置済)

ベンダーによらない
構造化されたがん関連RWD
プラットフォームの実現

期待される成果

医療機関・ヘルスケア産業

- ・RWDの構築
- ・医療の実態把握と可視化
- ・医療安全での活用
- ・診断/治療の最適化

行政

- ・施策への利活用
- ・Quality indicator

医療開発企業

- ・臨床試験の効率化
— 治験症例のリクルート
- 中央判定の労力・コスト減
- ・医薬品開発の迅速化

新しい医療・ヘルスケア産業の活性化 よりよい医療・国民健康の向上へ貢献